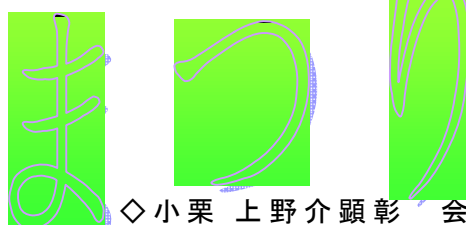


145回忌 5月27日



◇小栗上野介顕彰会主催の小栗まつりが倉渚小学校・東善寺の二会場で行われ、ゆかりの横須賀市、遠く八戸市や愛知、新潟、茨城、千葉、東京など全国からおおぜいの方が参加、演奏や講演を聴き墓前に献香して、小栗上野介の145回忌を追悼しました。

◇群馬マンドリン楽団の演奏のあと、記念講演は日仏交流の歴史を研究しているクリスチャンポラック氏で、「絹と光—知られざる日仏交流100年の歴史—」と題して、豊富な画像をつぎつぎに展開して、幕末から始まった日仏交流が大正時代まで日本に強い影響を与えていたことをわかりやすく語りました。



▲ 小栗父子主従の墓前にお参りしたポラック氏



▲ 講演するポラック氏

講演要旨 ◇絹織物を主な輸出品としていたフランスは、蚕の微粒子病で生糸生産に壊滅的な打撃を受け、日本の強い蚕と質の高い生糸によってこれを補おうとした。幕府は生糸・蚕の輸出を認可する代わりに、フランスの進んだ近代科学技術の導入を図り、日仏の相互依存の強い関係が築かれた。

◇明治以後もこの生糸と技術の交換関係は重要であったため、日仏政府は連携し、国内整備を急いだ日本に多くのフランスのエリートが来日して指導にあたり、たくさんのフランス文化が日本にもたらされた。「幕府寄りだった仏は、明治以後は不利…」というのは誤り。

◇その端緒が小栗上野介の提案で始まった横須賀製鉄所（のち造船所）の建設であり、技師のほかに家族を含め400人近い仏人でフランス村ができた。医師サバティエは日仏の植物を研究、イチゴ、桃、サクランボ、アンズなどをもたらし、日本のヤマユリを紹介してヨーロッパに広めている。

◇横浜には仏語伝習所が設置され、幕末の仏人軍事顧問団は、明治以後も第二次、第三次と来日、さらに大正期に飛行機の技術顧問団が立川に滞在して、飛行機技術と生産の発展に貢献している。

屋市もにぎやかー

◇今年もたくさんの

店が協力出店して、にぎやかでした。東善寺直営の海軍カレー／マスの塩焼の川田橋の会／おいしい地酒の牧野酒造／あじさいグループ／三光堂の小栗公最中／深井キノコ店／小栗上野介関連書籍の戸田ブックス／倉渚パン工房湧然／今泉織物の正藍染／工房てんびん／陶芸佐藤窯／遊迷人グループの手打ソバはいつも行列／唐松の会／権田郵便局／世田谷パン／清水タコ焼 大判焼き榛名まちづくりネット／初参加の新町商工会は串モツやから鳥もちが人気でした。

◇三光堂提供の本物の甘酒、東善寺提供のナメコ汁や甘茶の無料サービスなどは好評で、たちまち品切れとなりました。



海軍カレーは人気



筒針町

(愛知県岡崎市) で講演

◇岡崎市筒針（つつばり）町は小栗家の先祖が常陸（茨城県筑西市）から移り住んで、のちに徳川家康の家臣となり、家康に従って



江戸に移り住むまでの「先祖の地」。ところが記録史料に「筒針城」とあっても、数年前に訪ねるとそれらしい遺構はなく普通の平らな住宅地があるばかり。

◇できたら「筒針城址」という石碑を建ててもらいたい、そのきっかけになればと考え、住職は4月末に岡崎市筒針町で小栗上野介についての講演を行いました。

◇3月末に東善寺にお参りした地元有志がチラシを作り、町内の方呼びかけた成果で、町の公民館には三重、浜松からも含め約100人が集まって、熱心に話を聞いてくれました。

◇有志との懇親会で、権田の地酒純米酒「馥露酣」に「筒針城」と特製ラベルをつけて持参したところ、有志が用意していた越後の「超有名ブランドの純米酒よりうまい！」と評判になりました。



筒針城址を探る

◇筒針城の正確な位置は確定されていませんが、浅井敏氏（岡崎市・愛知中世城郭研究会会員）は明治17年の戸籍台帳をもとに調査した結果、従来言われてきた上川田地区よりさらに北の元流地区に、当時はヤブとして記録されている盛り上がった土手状の地形があること、この矩形（黒い太線）に囲まれた地域は明治のころも畑とされていて、その周囲の田よりも高い土地であることがわかることから、この一帯がいわゆる「筒針城址」であろうと結論付けた。

◇この浅井敏氏の研究の詳細は、間もなく発行予定の小栗上野介顕彰会機関誌「たつなみ」37号に掲載されます。顕彰会員または「たつなみ会」会員以外でご希望の方は東善寺へお申し込み下さい。

「小栗上野介が群馬を代表する歴史上のリーダー」と推薦▼上毛新聞コラム「三山春秋」・平成24年5月27日



岩津城主が

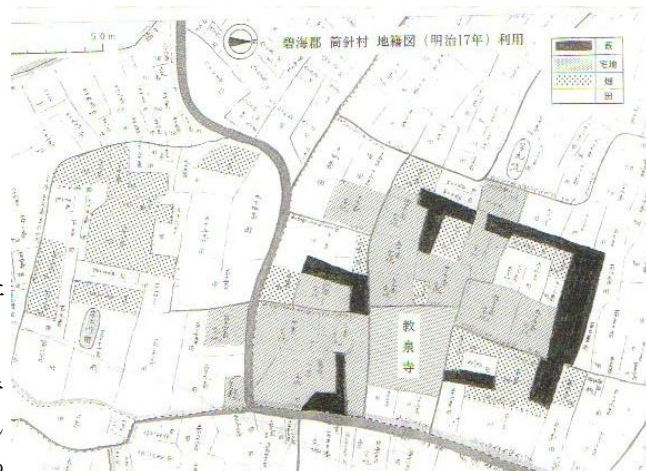
小栗家初代

◇小栗家は初代を岩津城主（岡崎市）の松平太郎左衛門信吉とし、以下二代松平忠吉一三代小栗吉忠としています。松平から小栗に変わったのは、信吉に小栗正重（筒針城主）の妹が嫁いで男子忠吉をもうけたが、間もなく信吉は討ち死にし、跡を継いだ信吉の養子親長との折合いが悪く、忠吉を連れて筒針の兄正重のもとに引き取られる。

◇二代目松平忠吉の子が三代目小栗吉忠で、吉忠は家康の命で小栗家を継いだとされています。小栗正重に子供がいなかったということらしい。四代目小栗忠政はたいそう武力にすぐれ、たびたびの合戦で「小栗殿が一番槍」と報告が来るので、「またも一番か、今後は又一を名乗れ」と家康から名誉の名を貰ったという。

◇その岩津城址は今は樹木に覆われた小山で、先年まですごいヤブでした。4月の講演（筒針町）の後に訪ねると、ヤブがきれいに払われた踏み跡をたどって「岩津城址」の碑まで楽に行くことができ、地元の熱意・努力が感じられました。

明治17年地籍図▼



会員になって下さい

東善寺

たつなみ会

倉渕町の小栗上野介顕彰会では機関誌『たつなみ』を発行(年1回)しています。東善寺の「たつなみ会」会員になっていただければ、「小栗上野介情報」や「東善寺だより」など、東善寺発行の小栗上野介・幕末関連の情報とともに、『たつなみ』誌を発行のつどお送りし、機関誌代が顕彰会の活動資金となっています。倉渕地区の人口減で顕彰会員が減っていますので、「たつなみ会」会員の増加を期待します。

□お申し込みは：東善寺へ メールまたは電話、ハガキで

□会費 年1300円 □郵便振替「東京00120-1-406206東善寺」へ